

県内の新型コロナウイルス感染症検査陽性者数は10月末日で27人でした。その後いくつかのクラスターが発生し、昨日午後の発表では検査陽性者数がのべ230人、死者が8人とされています。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、闘病中の方々のご回復をお祈りいたします。また、医療機関や保健所を始めとして感染症対策にあたられているみなさまに、この場をお借りいたしまして心からの感謝をお伝えいたします。

では、質問に入ります。内容の一部や主旨が重複するものもありますが、通告通り質問いたします。お許しください。

始めに新型コロナウイルス感染症に関わる人権擁護について、お考えを伺います。

11月の中頃から「誰が感染してもおかしくないね」という声がちらほら聞こえるようになりました。検査陽性者が誰もいなかった時とは雰囲気が変わって来た様にも思います。また、県知事・市長、保健所や行政機関などは当初から「感染者・関係者への思いやりの気持ちを持ってほしい」とアピールして来ました。しかし、いまだ検査陽性者やその関係者に対して人権を鑑みない、誹謗中傷と言っても良い様な噂があると私は思っています。

今年度、面談による人権相談は感染症防止のため中止になっていますが、電話とインターネットでは随時受け付けているとのこと。新型コロナウイルス感染症関係の相談は何件ありましたか。また、その概要をお知らせください。検査陽性者は今後も増えていくと思われそうですが、それらの方々の人権を守るためにお考えの施策がございましたらお知らせください。

次に、この間の新型コロナウイルス感染症がもたらした影響について、いくつかの項目で伺います。

この感染症はかなり大きなストレスです。

特效薬がなく、重症化した場合は難しい病気です。発症前から感染力があることなどから、感染を防ぐためには人との関りを減らすことが求められます。いつ終息するのか、正確な所は誰にもわかりません。

先日、子どものメンタルケアに関わる講演会で講師の方が「人間は密になることが必要ですよ」と仰っておられましたが、全くもって私もそう思います。

人と人との触れ合いが心理・社会的ストレスを和らげるものであるとして、ケアの現場では身体的にも心理的にも『近しくあること』が良しとされてきました。しかし残念ながらしばらくの間、私たちは距離を取らざるを得ず、感染症拡大という大きなストレスにさらされているのにも関わらず、それを和らげる手段が大きく制限されています。

この様な状況の中、以前から困難を抱え気味だった方々のことを私はとても心配しています。影響が考えられるいくつかの事柄について伺います。

まず、自死についてです。

日本の自殺者数は1998年に3万人を超え、2003年で3万4,427人とピークを迎え、2009年から徐々に減り始めて、昨年2019年には2万169人まで減少していました。

今年の月齢別自殺者数を過去6年間と比較してみると、非常に特徴的な傾向が見られます。1～6月までは前年同期比で減少、特に4、5月は減少幅が大きかったのですが、7月からは一転増加に転じ、10月の自殺者数は速報値で前年度比42.6%増の2,153人となりました。

10月21日、いのち支える自殺対策推進センターが記者会見を開きコロナ禍の自殺の動向について報告をしました。4月、5月については「社会的危機の最中や直後には、死への恐怖や社会的連帯感・帰属感の高まりで、自殺者数が減少することが多くの研究で報告されている」と分析。

「もともと自殺リスクを抱えた人たちが『辛いのは自分だけじゃない』と考えたことで、この期間中は自殺行動に至らなかった可能性が考えられる」「政府が打ち出した支援策によって生活不安がある程度払拭された可能性がある」とのこと。7月以降は様々な年代において、女性の自殺が増加傾向にあることについて、経済生活問題や勤務問題、DV被害、育児の悩み、介護疲れなど様々な問題が背景にあることを指摘。「コロナ禍において、自殺の要因になりかねない問題が深刻化していることが、女性の自殺率の増加に影響を与えている可能性がある」とみています。

私はチャイルドラインという子ども電話の活動に関わっていますが、6月以降、家族関係が上手く行っていない子どもが親と接する時間が増えたことでストレスを抱えていたり、苦しい気持ちを軽くするために必要な友人との交流や課外活動等が制限されたことで、とてもつらい気持ちになっているという訴えが増えていると感じています。

盛岡市はどのような状況でしょうか。コロナ禍の自死の現状について発生数と、そこから推測できる特徴、対処等をお知らせください。また、2019年度から実施している盛岡市自殺対策推進計画は、このコロナ禍によって何らかの影響を受けていますか。変更すべき点等がありましたらお知らせください。

同様にコロナ禍の下での家庭内における暴力に関して順次伺います。

ひとつ目は児童虐待についてです。

11月19日の報道では全国の児童相談所が2019年度に児童虐待として対応した全体の件数が速報値で19万3,780件、前年度比21.2%増で過去最多となりました。児童虐待が発見され、児相によって対応されたケースがカウントされるわけですから、虐待件数の増加は一概に悪い事とは言えないと言うのが私の見解です。

さて、今年度はどのように推移しているのでしょうか。速報値が出ている所まで結構ですので、全国と盛岡市での虐待件数と、今年度に特徴的な傾向がありましたらお知らせください。またそれによって、今まで行ってきた施策について見直し等を考慮する必要があるれば、その内容について伺います。

ふたつ目は高齢者虐待についてです。

こちらは私、過去の数字を持ち合わせておりません。全国と盛岡の2019年度と2020年度の高齢者虐待件数をお知らせください。2020年度に関しては確定している月まで結構です。また、コロナ禍の影響が見受けられるかどうか、見受けられる場合はそれへの対処についても伺います。

児童虐待防止法は一般市民にも通告義務があり、児童相談所虐待対応ダイヤル^{いちはやく}189周知のキ

キャンペーンも盛んにおこなわれていますが、それに比べて高齢者虐待は発見しづらいままでであると感じています。コロナ禍において、後回しの対応にされていないか不安に思いますが、どのような対応をされているのかお知らせください。

みつつ目はDVについてです。

前のふたつと同様に、全国と盛岡の2019年度と2020年度のDV相談件数をお知らせください。2020年度に関しては確定している月までで結構です。昨年と比較して相談内容に変化がありますでしょうか。

この項の最後に市長に伺いたいと思います。

今までこの項目で伺って来た課題は、自分や他人に向けた暴力という問題です。大きなストレスに晒された場合に起きやすい暴力なので、支援者はストレスとなっている根本的な問題を知ることから支援を始めなければなりません。失業や経済的な困窮は、ストレスを増大させる大きな要因のひとつです。福祉的なアプローチは盛岡市のそれぞれの現場で取り組んでおられますが、同時に、経済的な側面の支援が必要です。

東日本大震災の際、行政の生活支援が続くことによって心の安定を保つことが出来た方々も沢山いました。今回の世界的なパンデミックという大災害においても、現在行っている経済的支援の継続、あるいは拡大を行うことは、困難を抱えている方々の心の安定に大きな効果をもたらすことにつながります。新型コロナウイルス感染症に係る今後の経済的な施策に関する市長のお考えをお聞かせください。

次にいじめと不登校について伺います。

まず、小中学校でのいじめについてです。

2020年10月22日に文部科学省が発表した『児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査』2019年度調査結果によれば、いじめの認知件数は61万2,496件となり5年連続で過去最多を更新しました。盛岡市の調査結果をお知らせください。

2014年度はいじめ認知件数は18万8,072件ですので約4倍も増えたこととなります。しかし、この調査は2015年8月に出した通達で文科省自体が「実態を正確に反映しているとは考え難い」「いじめの認知件数が多い学校について、『いじめを初期段階のものも含めて積極的に認知し、その解消に向けた取組のスタートラインに立っている』と極めて肯定的に評価する」と明言しているものです。

先日、いじめをなくすための今すぐ使える情報をネットやEテレの『いじめをノックアウト！』などで発信している『ストップいじめ！ナビ』の須永祐慈副代表からお話を伺いました。いじめの多くは学校でのアンケート調査から発見されるものが多いとのことですが、アンケートの設問の仕方によって結果が大きく違って来るとのことです。『いじめがあるかどうか』という設問に対する回答はいじめ事件の報道の頻度に大きく左右されます。『ひどくぶつかる、叩く、蹴る』『仲間はずれ、無視、陰口』等、具体的な設問を行うべきで、特に『仲間はずれ、無視、陰口』等をい

じめの初期的段階としてとらえるのが良いと思います。盛岡市の学校ではどのようないじめアンケートを行っているのか、学校によって違うとは思いますが、教育委員会の指導はどのようなものなのかお尋ねします。

さて、須永副代表から伺った話の中に大変興味深いものがありました。滋賀県大津市の大規模調査等のいじめ研究から解ったことですが、体罰の行われる教室・教師が抑圧的な教室・いわゆるブラック校則のある学校はいじめの発生件数が多い傾向が強く、教師が子どもの話を良く聞いてくれる教室では大きいじめは起きづらい、ということです。1980年代から始まったいじめ研究は、個人論から集団論、そして環境論へと移行しています。

また、いじめが起きている教室で、加害者と被害者以外の子ども達がどのようにふるまえばいじめを小さくすることが出来るかという話も面白かったです。いじめられている人の逃げ場であるシェルターの役割を担ったり、いじめが始まったらその場の話題を変えさせるスイッチャーとなるなど、いじめを辞めさせる様な強い主張が出来ない生徒も教室全体の環境を変化させられるとのこと。クラス運営の実践に役立つ話だと思いました。

この様な、最近のいじめ研究について、教育研究所を始めとして接しておられると思いますがいじめをなくしていく為に、教育委員会はどのような方策を取ろうと考えておられますか。また、それらについて教職員へどのようにして伝えているのか、研修制度などについて伺います。

次に小中学校での不登校について伺います。

まず、今年度の小中学校での不登校生徒の数とその原因をお知らせください。また、6月の段階では新型コロナウイルス感染症への懸念から自主的に休校している生徒が数名おりましたが、現在はいかがですか。

全国的には大規模な休校や分散登校が行われていた1学期に、不登校の子供たちのストレスはかなり軽減していたと言われていますが、コロナ禍は不登校の生徒たちに影響を及ぼしましたか。学校そのものがストレッサーになっている子ども達に対して、オンライン教育は大きな成果をあげるのでは、と私はと思いますが、タブレット端末が全生徒に配られて以降の不登校対策のひとつとして、ご検討いただけませんか。

次に地域共生社会づくりについて伺います。

最初にひきこもりに対する施策について伺います。

2019年9月20日気付の厚生労働省社会・援護局地域福祉課の市町村セミナー『ひきこもり支援施策の方向性と地域共生社会の実現に向けて』を読みました。真面目に読んだつもりなのですが、正直なところ、地域共生社会づくりの一環として位置づけられて取り組む方向なのだろうという以外は良く解りません。盛岡市における今後の取組みについて、以下をお知らせください。

盛岡市におけるひきこもりの推計値は何人ですか。広義と狭義のそれぞれの人数もお知らせください。推計の根拠もお知らせください。

盛岡市における就職氷河期世代活躍支援プランの概要はどのようなものですか。また、地域若者サポートステーションの強化の内容をお知らせください。

自立相談アウトリーチ機能の強化について書かれていますが、今年度の実績をお知らせください。また、ひきこもり地域支援センターと自立相談支援機関の連携強化に盛岡市はどのように関わっていますか。今年度、盛岡市が関わったケースがあればその実績をお知らせください。

ひきこもりだけではなく、地域共生社会に向けて包括的支援体制を促進していく方向性が提起されていますが、これは現在事業の委託先になっている盛岡市社会福祉協議会が中心になって進めていくと理解してよろしいのでしょうか。また、事業の目的に対する達成指標はどのようなものになるのでしょうか。

次に成年後見人などあんしん施策について伺います。

まず、成年後見人センターについて開設から今までの実績についてお知らせください。

成年後見人センターを始めとして、高齢者のサポート施策を更に充実させていく必要があると思います。私は2年前、2018年の3月定例会で足立区社会福祉協議会が実施している『高齢者あんしん生活支援事業』に触れ、成年後見人制度の充実とあわせてこの様な高齢者の入院や施設入所に対する保証機能や支援を盛岡市でも行うべきだと発言しています。当時いただいたご答弁は「多機関の協働による包括的支援体制モデル事業において検討する」というものでした。まずはその検討結果についてお知らせください。

今年の7月、身元保証や生活、葬祭・死後事務、法律相談など独居高齢者を総合支援する一般社団法人が活動を開始したと聞きました。それ以前から同様の活動を行っているNPO法人も市内に存在します。盛岡市はこれらの民間法人と連携した形での高齢者支援を積極的に行うべきだと考えますが、ご見解をお聞かせください。

最後に交通安全について伺います。

危険な交差点について伺います。

西警察の交差点から200メートル程南側に信号のない横断歩道があります。「暗くなってから利用するのは危ない」と言われています。理由をふたつ、耳にしました。ひとつは付近が暗くて横断歩道が目立たないこと。もうひとつは、見晴らしの良い直線道路で西警察交差点の信号が離れた場所からでもはっきり見えることです。信号が変わる前に交差点を通過したいと考えるドライバーがつついスピードをあげるからではないか、と近所の方が仰っていました。このような場所はここに限らずいくつかあると思います。注意喚起の看板や、横断歩道を照らすLEDライトの設置などを検討すべきだと思いますがいかがでしょうか。

危険な交差点について、もうひとつ伺います。例えば北厨川小学校の南北に伸びている住宅地の様に、狭隘な生活道路から幹線道路に出る場合、宅地の塀が敷地ギリギリに設置されていて左右の安全確認が厳しい場所があります。高齢ドライバーが増える中で安全対策を考える必要があると思いますがいかがでしょうか。また、視覚確保のために隅切りに関する協力を市民に求めることは出来ませんかでしょうか。

次に自転車に係る交通安全について伺います。

コロナ禍もあり、自転車利用が増えていると言われています。それと同時に、交通法規を守ら

ない自転車運転も増えている様に見受けられます。最近はあまり耳にしなくなりましたが『自転車のまち』を標榜している盛岡市としては、最低でも違反によるリスクが大きい『歩道・横断歩道での徐行運転』『左側通行』『一時停止の厳守』の3点を守る様に周知徹底をしていただきたいと思えます。違反を行っているのは決して若年層だけではありません。多分、普通運転免許を持っているであろう人たちも違反を行っています。自転車が車両であるという意識が希薄であることも大きな原因のひとつであろうと思えます。県警と連携した取り組みが必要だと感じますが、ご所見をお聞かせください。